

(3)都市基盤整備の基本方針

□都市計画道路の整備方針

現在の都市計画道路網をみると、道路網密度は必ずしも高くありません。特に川越駅西口周辺地区及び東口の商業、歴史観光資源集積地を結ぶ幹線道路が（都）中央通り線（至（都）川越所沢線、ともに一部を除き未整備）と国道16号（既存道路）のみであるため、東西アクセスの強化等を念頭においた新たな幹線道路ネットワークの形成が必要となります。

ただし、現在の川越駅西口周辺地区の市街地の状況や都市基盤整備の進捗状況、及び本市の財政事情等を勘案すると、当面は未整備の都市計画道路整備を推進するとともに、公共交通サービスの充実や歩行者・自転車空間の充実、シャトルバスやパークアンドライドの導入検討等、総合的に交通システムを充実させることによって自動車交通の集中緩和を図ることが有効であると考えられます。

特に歩行者・自転車空間については、現在地区内の多くの道路において整備が不十分であり、歩行者や自転車通行者が安心して往来できる状況にはないことから、三駅及び拠点周辺を中心として歩道の整備を推進し、歩行者ネットワークを形成することが必要です。

□駐車場の整備方針

川越駅西口周辺地区の総合的な都市整備の観点から、市有地を活用した駐車場整備が考えられます。また、比較的駅に近い県川越地方庁舎敷地においても、駐車場整備の有効性等について検討します。

また、西部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）をはじめとする業務施設、商業施設、集合住宅等においては附置義務基準を順守し、自ら駐車需要に応じた駐車場整備を行うとともに、既存の駐車場を有効に利用するため、駐車場案内・誘導システム等の導入を検討します。

□自転車駐車場の整備方針

今後、川越駅西口周辺地区内の人口増加、西部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）の整備事業に伴い駐輪需要の増加が見込まれるため、自転車駐車場の整備を促進します。

また、市有地の土地利用転換に併せ、現在の暫定自転車駐車場の代替移転の確保を検討し、民間自転車駐車場の整備並びに西口駅前第一及び第二自転車駐車場の再整備を推進し、収容台数の増加を図ります。

□広場・オープンスペースの整備方針

公共用地の広場化、街路や公共施設等公共空間の緑化を推進するとともに、工場用地等の敷地においても、土地利用転換に際して緑化がなされるよう地区計画・景観形成地域等の施策の働きかけを行い、地区の環境向上を図ります。

具体的には、川越駅西口駅前広場の再整備や、市有地の土地利用転換の際に、オープンスペース化および緑化を図ることとします。更に、街区公園や神社、地区内に点在する生産緑地についても、貴重な緑地空間として位置付け、これらの広場・緑地・オープンスペースを結ぶネットワークの形成を図ります。

□川越駅西口駅前広場機能の再整理と改善の方向

川越駅西口駅前広場については、「川越駅西口周辺地区まちづくり交通計画調査（平成 16 年 3 月）」において、将来人口約 34.5 万人（平成 32 年）を想定した面積算定を行っています。

結果は右図のとおりですが、最新の「98 年式（駅前広場計画指針・建設省監修）」によると、将来の川越駅西口駅前広場の面積は、バスバースとタクシーバースの増加等により、現在の約 8,400 m²から約 2,900 m²増の約 11,300 m²が必要であると推計されています。

算定式	面積
現況	8,400 m ²
昭和 28 年式	8,713 m ²
昭和 48 年式	7,600 m ²
小波式	5,600 m ²
修正小波式	6,110 m ²
98 年式	11,300 m ²

また、駅前広場には、以下のような多様な役割が求められています。

〔駅前広場に求められる役割〕

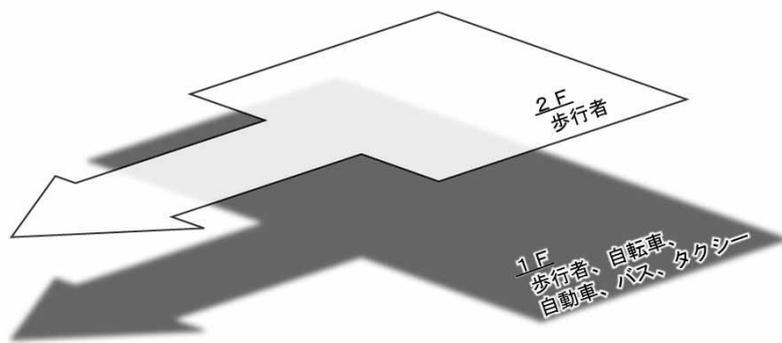
- ・川越市及び川越駅西口周辺地区の玄関口としてふさわしい空間整備と景観形成
- ・良好な交通結節点として、快適にバス、タクシー、自家用車、自転車、歩行者が利用できる交通環境整備
- ・市内・周辺都市から多くの人々が集まる空間として、高齢者、障害者、子供、外国人等、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの実現

これら求められる役割の中で、大きな課題とされている良好な交通環境の実現については、通過交通の排除が必須です。これは、（都）中央通り線と（都）川越所沢線が整備されることによって改善されると考えられますが、バスバースの増設や良好な歩行者動線の確保等を実現するために、駅前広場の面積拡大・改造が必要となります。

ただし、推計値のように広場面積を拡大するには、周辺街区を巻き込んだ大改修となるため、以下のように諸機能を分散整備する方法が有効であると考えられます。

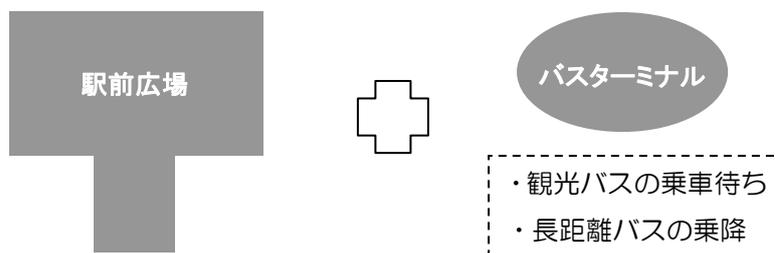
○良好な歩行者動線の確保：歩行者動線の2層化

- ・川越駅の改札が高架上の2階レベルにあるため、川越駅西口駅前広場の上部にデッキを整備し、駅から（都）川越駅南大塚線沿いに直進できるようにします。その際、エレベーターの設置等人にやさしい構造を実現します。



○多様なバス需要への対応：ターミナル機能の分散化

- ・路線バス、企業や学校の送迎バス、観光バスのすべてを駅前広場内で処理するのではなく、拠点の形成等の大規模土地利用転換において分散型バスターミナル整備について検討します。



(4)大規模用地の土地利用転換方針

ここでは、都市基盤整備と密接に関連し、新たな拠点の形成が期待される大規模用地の土地利用転換の方向性について整理します。

□市有地

- ・ まちづくりの観点から地域の活力とにぎわいの創出に寄与すべく有効な活用策を検討します（例：行政機能、商業・業務機能等）。
- ・ 近隣で整備が予定されている西部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）との連携、周辺に立地促進させる広域商業・業務の核としての機能、及び三駅が一体的に機能するための要となることが、期待されています。
- ・ 現状は暫定自由広場と暫定自転車駐車場として利用されています。この暫定自転車駐車場は利用率が非常に高いため、土地利用転換の際にはこの代替機能を確保する必要があります。
- ・ 川越駅西口における市有地活用による拠点形成については、それに伴う発生集中交通量の増加が予想されるため、周辺における道路ネットワークの形成のみならず、駐車場・自転車駐車場の整備について検討します。

□県川越地方庁舎敷地

- ・ 県川越地方庁舎の機能は、西部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）への移転が予定されていますが、施設移転後の跡地の利用は、現在定められていません。
- ・ 現在の県川越地方庁舎敷地は川越駅から近く、また広大な敷地規模を有しています。そこで、周辺の住宅系市街地との調和を図ったうえで、中核市や中心市街地として求められる機能の導入を検討します。具体的には、県や国の施設、高次都市機能や行政サービス機能等の導入による、新たな拠点の形成を図ることとします。
- ・ 県川越地方庁舎敷地が土地利用転換される際は、県と十分な協議を行い、有効な土地利用方策を検討する必要があります。

(5)土地利用誘導の方向について

川越駅西口周辺地区における都市基盤整備は、一部において土地区画整理事業が終了し、また今後も計画されているものの、都市計画道路（幹線道路）の整備は進んでいない状況にあります。従って、川越駅西口周辺地区においては、今後の新たな拠点の形成と都市基盤整備の進展を踏まえた土地利用誘導が必要となります。

ここでは、土地利用誘導のポイントについて整理します。

□道路ネットワークの形成

- ・（都）川越駅南大塚線などの整備により、一部については歩道が確保されているものの、現在では都市計画道路の整備が未だ不十分です。そのため、道路ネットワークが形成されていないだけでなく、多くの道路において歩行者や自転車が安心して往来できる空間が整備されていません。また、鉄道3社の線路により、市街地の分断や交通の遮断が課題となっています。
- ・ 今後、土地利用の転換を誘導し快適で魅力的な市街地を形成するためには、都市計画道路を中心とした道路整備を推進し、良好な道路ネットワークの形成が必要となります。また、バリアフリーに配慮した歩行者空間の整備、鉄道の立体交差化、公共交通システムの充実等により、川越駅の東西地域の連携を強化し、利便性・回遊性の向上を確保することも重要となります。

□三駅周辺の連携強化

- ・ 川越駅西口周辺地区においては、川越駅、本川越駅、川越市駅の三駅が一体となり、西部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)やその他行政サービス機能、広域業務・商業等の諸機能が相互に連携しあうことが期待されています。
- ・ 一体のエリアとして機能するために、道路ネットワークや歩行者ネットワーク等の形成によって回遊性を高めることが必要です。
- ・ また本川越駅と川越市駅に囲まれた地区は、駅間の道路を整備することにより、回遊性の確保とともに、駅利用者の利便性向上が求められています。
- ・ 上述した三駅間の回遊性向上のため、本川越駅及び川越市駅における各事業の推進、並びに西武新宿線の立体化の促進を図る必要があります。（本川越駅：西口駅前広場及び川越市駅とのアクセス道路の整備、それに伴う西口の開設。川越市駅：駅前広場の整備及び橋上駅舎化、それに伴う西口の開設）

□商業・業務機能の分担

- ・ 川越駅西口周辺地区においては、大規模用地や低未利用地が多いことや、国道16号や関越自動車道等の交通アクセス性を踏まえ、広域的な業務・商業機能、及び行政サービス機能の集積を誘導・促進します。
- ・ また、歴史・観光資源が集積する北部市街地や川越駅東口周辺地区との有機的連携を強化することで、川越駅西口周辺地区の活性化を図ります。